

令和元年度国有林モニター現地見学会

企画課

北海道森林管理局では、

国民の皆様にも国有林の役割や現状をご理解いただくとともに、国民の幅広い意見を把握し国有林の管理経営に役立てるために、一般公募により平成30年4月から2年間の任期で全道各地の48名の方にモニターを委嘱しています。

7月6日に、空知森林管理署管内の国有林にて「令和元年度国有林モニター現地見学会」を開催しました。

今回は、午前中に採種園の見学と耕地防風林の施業を見学し、午後から間伐実施箇所の見学と利根別自然休養林の散策というコースで行いました。

由仁採種園

由仁町の採種園では、林木育種センター北海道育種場の牧野場長と千葉育種技術専門役から育種事業の内容や取組の説明をしていただきました。

モニターから、道有林との連携や品種などについて質問があり、毎年行っている種の豊凶調査の結果などを北海道と共有していることや、カラマツの花粉をグイマツの雌花に受粉してできるクリンラーチという品種がネズミの害に強く成長が早い等の利点があり、需要が高く道内に広く流通していることが紹介されました。



採種園で質問するモニター



育種事業の説明をする
千葉育種技術専門役

凸型防風林

長沼町の防風林では、耕地防風林が戦前から戦後にかけて造成された歴史と、現在、防風林の老齢化に伴う倒木、落枝や防風機能の低下などの課題に対応するための取組について管轄している木村首席森林官が紙芝居で説明し、現地を見ていただきました。

また、防風林の中で刈り払い機により下刈作業を行っている様子も見る事ができました。

下刈作業を見て、「このような平らな場所では人が草刈りをしていては大変だ、農家なら自走式の機械で刈っている」との意見があり、森林の作業



ナナカマドを植栽した箇所での下刈りの説明



凸型防風林を紙芝居で説明

ではこのように平らな箇所はまれであること、一定程度の傾斜のある箇所

でも使用できる下刈機械の開発に力を入れていることを説明しました。

その他、防風林の植栽木にナナカマドを選んだ理由について質問があり、樹高があまり高くないナナカマドなどの木を林縁に植栽して、中央には樹高が高くなるヤチダモなどを植えることや、広葉樹の苗木の入手が難しいことが課題であることなどを説明しました。

間伐実施箇所

昼食後には、由仁町の間伐を実施した箇所を見学しました。これまで広報誌などを通じて列状間伐について紹介していましたが、実際の作業箇所でも、安全に作業ができて伐採や搬出にかかるコストも低くなるなどの特徴を知っていただきたいと考え、今回のメニューに加えま



トドマツの列状間伐を行った箇所



間伐の実施箇所の説明

現地では、列状間伐のメリットのほか、森林踏査や森林計画の樹立、収穫調査など伐採までの一連の流れを説明し、理解を深めていただきました。



列状間伐箇所をバックに記念撮影



輪尺を使って測樹体験

その後、輪尺という器具を使って立木（りゆうぼく）を測る体験をしていただきました。

この森林は、岩見沢駅から3キロメートルの位置にあり、面積は364ヘクタールです。林内には、広葉樹の大径木が点在し、鳥類や植物の種類も多く、憩いの森や観察の場所として多くの市民に利用されています。



利根別自然休養林の散策

最後の見学地の岩見沢市の利根別自然休養林では、緑豊かな森林の中で思い思いに散策を楽しんでいただきました。

利根別自然休養林

今後の予定

今年度は、冬に国有林モニター会議を開催し、この2年間の国有林モニター期間のあいだの感想やご意見を伺う予定です。また、広報誌等の情報をお届けしながら、北海道内や国内の森林・林業の置かれている状況や課題について、国有林モニターの皆さまと情報を共有するなかで、ご意見をいただきたいと考えています。

令和2年、3年度の国有林モニターを年末に募集する予定です。ホームページや広報誌でご案内しますので、是非ご応募いただき、皆さまのご意見をお聞かせください。